ワークショップを通じた成長ー徳島大学 i.school で得た変化ー

氏久菜々美[1], 玉有朋子[2)3)], 片山哲郎[4)], 小出静代[6)], 金井純子[5)], 北岡和義[7)], 石原祐[3)]
1) 徳島大学生物資源産業学部, 2)徳島大学 i.school, 3)徳島大学高等教育研究センター, 4)ポスト LED フォトニクス研究所, 5) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 6)経営企画部 大学経営企画課, 7)徳島大学教養教育院

1.はじめに

徳島大学 i.school は令和 4 年度にスタートした徳島大学のイノベーション教育プログラムであり、『「徳島」から日本や世界を変えるイノベーションを実現することを目指し、イノベーション創出プロセスを設計、実施できる人材を「徳島」において育成すること』を目的としている。

筆者は令和６年度から 3 期生として参加し、「人前で意見を述べる力を磨き、アイデア創出のプロセスを習得したい」という目標から、本プログラムへの参加を決めた。本稿では、徳島大学 i.school に参加することで成長した事柄にして述べる。

2. イノベーションワークショップについて

イノベーションが起こるプロセスを、１.革新的な製品やサービスのアイデアを発想する、２.アイデアが実際にイノベーションにつながるという仮説を検証する、３.仮説検証された製品、サービスのアイデアを事業化する、４.事業の規模を拡大し、本格事業にする、という４段階に分けて考える[1)]。このプロセスをワークショップ形式で実施したものがイノベーションワークショップである。

徳大 i.school では、バイアスブレイキング、ニーズ×テクノロジー、目的分析・アナロジーの３つの主要アプローチ手法を習得した後、実際に学生がワークショップ（以下 WS）を設計し、実施する機会が設けられる。このプロセスにより、イノベーションを創出するための思考プロセスを学ぶ。各 WS の流れとしては、事例を基に、顕在化していないが本質的なニーズを把握するための「目的分析」、目的を達成するための手段について考える「手段分析」を行い、それらの分析を踏まえ「アイデア発想」をし、最終的にアイデアの評価を行う。この WS でのアイデアの評価法の特徴は多数決や議論によってアイデアを選ばないことである。「新規性・有効性・実現可能性」などの論点に照らし合わせ、各アイデアのポジティブ・ネガティブ性を挙げていき、決定する。

3. ワークショップ

3-1 ワークショップ in 合宿 ～勝浦町のエクストリームケースから読み解く優しい人口減少のデザイン～

本合宿は 2024 年 6 月に徳島県勝浦町にて 1 泊 2 日で行われた。この WS の目的は人口減少が進む地域において、より良い未来のための製品・サービスを考案することである。

町内を探索し、地域の方々へのインタビューの実施や、勝浦町に詳しい講師の話を通じて、勝浦町の背景や現状についてインプットした。社会課題（ニーズ）や、目的を達成するための手段となるテクノロジーの機能の分析を行い、検討することでアイデアの発想を行った。最終的には班ごとに選ばれたアイデアをスキット形式で発表し、アイデアをさらに次のステップに繋げるための改善アイデアを構築するために、フィードバックを得た。この 2 日間で、目的分析からアイデア発想に至るまでのアプローチ手法を一通り体験することによって、イノベーションワークショップに対する理解を深めることができた。また、この合宿を経て、ニュースやインタビューを見る際に、「これは事例として使えるかもしれない」といった視点で考えるようになり、日常のあらゆる場面から学びを得ようと意識するようになった。

図 1.ワークショップの様子

3-2 WS04 イノベーションワークショップのアプローチの理解

この WS は勝浦町での合宿時と同様のテーマを用いて、1～4 回目までに学んだ 3 つのアプローチ手法を総復習する回であった。「目的分析」→「手段分析」→「アイデア発想」→「アイデア評価」という手順を踏み、各班で最終的に選ばれたアイデアをイラストと概要をホワイトボードに書き、発表した。この WS でこれまでのアプローチ手法を復習したこと、また後述するディスカッションパートナー(DP)を経験したこともあり、各アプローチ手法の違いについての理解をより深めることができたため、アイデア創出までの時間が以前よりも短縮された。

徳島大学 i.school の WS は、どんな意見も否定されない雰囲気が特徴である。そのような場で数々の議論を経験したことで、自身の意見を述べることの不安が消え、安心して自分の考えを発言できるような心情の変化があった。

4. 南海トラフ後も住み続けたい街づくり in 徳島

この WS は 2024 年 10 月に徳島大学 i.school のプログラム外のものであるが、イノベーションワークショップを採用して行われた WS である。WS に慣れてきたこともあり、アプローチ手法のさらなる理解を深めるべく、初めて DP として参加した。本 WS では南海トラフ後も住みたいと思えるような徳島の街づくりをテーマに、「手段分析」から「アイデア発想」のプロセスを経て、最終的なアイデアをイラストと概要で発表した。

今回の WS は、社会基盤コースの OB・OG や教員が参加していたのだが、専門的な知識を持つ参加者を一人でまとめる役割に大きなプレッシャーを感じた。また、ワークショップの時間管理と、i.school 式の WS 手法を初めて体験する参加者にイノベーション WS の独特な手法をわかりやすく伝えることの難しさも痛感した。

今回の DP としての経験を通じてアプローチ手法への理解がより深まり、示唆や機能分析の持つ本質的な意味を明確に捉えられるようになった。

5. まとめ ～徳島大学 i.school に参加しての変化～

i.school で、数多くの意見交換の場を経験したことで、自分の考えを堂々と伝える自信と、相手に自分の考えをわかりやすく伝えるための表現力が養われた。また、WS では限られた時間内で解釈や示唆、アイデアを出す場面が多く、その場で即興的に意見を発する力が身についた。そして、アイデア創出のプロセスを学んだことで、新たな視点からアイデアを捉える力が身についたと感じる。これらの成長を得たということで、参加目的は達成できたと確信している。

i.school のアイデア創出プロセスの魅力は、知識量や思考の速さに関係なく、誰もが同じスタートラインでアイデアを生み出せる点にある。「センスや個性だけに頼らないアイデア思考法を学べます」[2)]とあるように、この手法を習得することで、誰でもイノベーションを起こす可能性を秘めたアイデアを創出することができる。今後はより鋭い示唆や深いアイデアを生み出すことを目標とし、来年度は DP として i.school での活動を継続していく予定である。

参考文献

1) 堀井 秀之「イノベーションを生むワークショップの教科書 i.school 流アイディア創出法」2021.日経 BP
2) i.school, i.school ホームページ(2024 年 10 月 18 日参照, https://ischool.or.jp/about)